非核・いしかわ

2022 年 1 月 20 日　月刊第 282 号

〒920-0848 金沢市京町 28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は 86 か国、批准は 59 か国（1 月 15 日現在）

1 面　加害者責任と東アジア共同体構想　井上英夫
3 面　「理解不能なことばかり」　五十嵐正博
4 面　＜トピックス＞　核兵器禁止条約　批准国 59 か国に
5 面　アジア太平洋戦争と植民地支配　井上久士
6 面　東電福島原発事故　作業員 10 年の記録を知る　片山夏子
＜独標より＞夏の憂え　若松きぬえ
7 面　二〇二一年 十二月　横山葉月
編集室より
8 面　石川の山めぐり　吉沢京子
絵手紙コーナー　近松美喜子
非核・平和の掲示板

【年頭所感】

池明観（T・K生）さんを偲んで

加害者責任と東アジア共同体構想

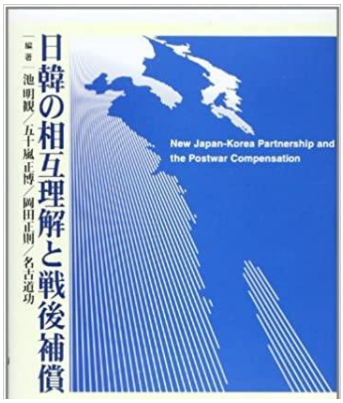
代表世話人　井上英夫

皆さん、明けましておめでとうございます。

コロナ禍を奇貨として、貧困・不平等の拡大、社会保障削減そして軍事費増大と改憲の加速化が図られ平和的生存権が脅かされています。危機、緊急事態においてこそその国、社会、私たちの生き方が問われます。

「禍を転じて福となす」。今年は、日本の核兵器禁止条約参加、批准をはじめ非核自治体・政府づくりへ大きく一歩を進めましょう。

元日に韓国の宗教哲学者池明観（チミョングァン）さんが亡くなられました。九七歳でしたが、日本、アジアそして世界の未来を考えるときまことに惜しい人を無くしました。金沢にも縁の深い人でしたが、非核石川の会の皆さんにとっては、「T・K生」のほうがなじみが深いかもしれません。



池明観さんと金沢大学法学部の共同研究書（日本評論社 2002 年）

「韓国からの通信」
―「T・K生」として

池さんは、一九七三～八八年、T・K生として雑誌『世界』に「韓国からの通信」を連載し、朴正熙、全斗煥の両軍事政権による反体制派への拷問や労働者への人権侵害等民主化運動弾圧の実態を告発しました。自身が「T・K生」であったことを明らかにしたのは、二〇〇三年になってからでした。

ちなみに、T・K生そして韓国民主化運動を支援したのは『世界』の編集長でのち社長になる安江良介氏ですが、金沢大学法文学部出身です。

池さんは、一九九三年韓国に帰国、九八年からの金大中（キムデジュン）政権で、日本の大衆文化に対する警戒感が根強かった中、早期開放を主張し、韓国で日本の歌謡やドラマ、アニメな

花鳥風月

二〇二一年一月二二日に核兵器禁止条約が発効して一年経過し、批准国は五〇か国から五九か国に増えた。本紙では毎月題字欄に禁止条約の署名国数と批准国数を掲載し、また署名国や批准国が増えるごとに【トピックス】として掲載している。さらに最近では未批准国でも同条約締約国会議にオブザーバー参加を表明した国も掲載している▼条約の発効により、批准国が増えれば増えるほど、核保有国を追い詰め、「核兵器のない世界」に向けたカウントダウンが近づいてくる▼今年三月二二日～二四日、オーストリア・ウィーンの国連事務所で開かれる第一回締約国会議で大事なテーマとなるのは、「核軍縮のための検証問題」と「核の使用による被害者の救済」である。核被害者の救済につき、被爆国日本の参加が期待されており、日本の参加は国際社会への大きな貢献となる▼日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める「自治体意見書決議」は、一二月二九日現在、六二六自治体（三五・〇％）にひろがっている。県内における自治体議会への要請行動は、新たな段階での課題・挑戦であり、創意を発揮して尽力していきたい。

"Think global, act local"（か）

【関連記事　四面】

どが広く親しまれるようになっています。

韓国では二〇〇四年まで翰林大学校教授も務めた他、KBSテレビ理事長や日韓共同歴史研究の韓国側代表などを歴任しました。

池さんは、韓国の民主化に力を注ぎ、日韓の関係改善に力を尽くしたわけですが、金沢大学法学部そして私自身大変多くのことを教えていただきました。

「韓国からの通信」に衝撃を受けたのは、早稲田大学大学院院生の時でした。一九七三年八月八日、金大中が韓国中央情報部（KCIA）により東京都千代田区のホテルから拉致され、船で連れ去られ、海に投げ込まれ殺されそうになりながら、五日後にソウル市内の自宅前で発見されたのです。金大中は暗殺を恐れ、都内を転々としていたそうです。その一つのアパートは、高田馬場駅近く、早稲田大学に至る早稲田通りにありましたから、私はその前を何も知らず通っていたわけです。

日本の加害者責任・戦後補償と日韓の相互理解

金沢大学法学部としては、日本軍慰安婦等に関する戦後補償すなわち日本の加害者責任に取り組んだ日韓共同研究があります。その成果は、『日韓の相互理解と戦後補償』として二〇〇二年に日本評論社から出版されています（一面）。池さんは、当時韓国の翰林大学校日本学研究所所長でしたが、金沢大学法学部の五十嵐正博本会代表、名古道功さん、学術会議問題で任命拒否された岡田正則さんと並んで編者になっていただきました。

私は、五十嵐さんと日本軍慰安婦問題を担当し、一九九七年から九九年、ソウルのナヌムの家、山の中の論山、そして釜山等、慰安婦とされたオモニと行政担当者から話を伺い、その結果をまとめました（第二章　戦争被害の実相と日本の戦争責任、「1　戦争責任の構造と『従軍慰安婦』問題」および「3　『従軍慰安婦』と戦後半世紀―聞き取り調査等から」）。

池さんは、総論において「本研究の意義」を執筆していますが、世界史的観点から、二一世紀の日韓関係についての展望を示しています。

日本軍慰安婦、徴用工問題をはじめ現在最悪と言われる日韓関係についてのみならず、世界の、そして何より日本の私たちの非核の政府・核廃絶運動についても示唆に富むものです。

「なぜ戦後半世紀を超えた今日において日韓のあいだにおいてなお戦後補償が問題になるというのだろうか」と問いかけます。

その原因として、①半世紀のあいだにそれこそ真摯にとりあげられたことがなかったこと、②かつてとは違って、いまは日韓両国民が成熟した市民社会に向けて確かな歴史認識を持つようになってきたこと、③二一世紀が二〇世紀の過ちを否定して和解と協力を求めねばならない時代であると日韓両国の市民が自覚していること、をあげています。

さらに、戦後補償は、「単なる金銭的補償を意味するのではなく、二一世紀を創造的に生きようとする決意を示すことであり、それでこそ国民的相互理解が成立する」というのです。したがって、戦後補償問題は、一九六五年日韓条約やその後の「補償」により解決済みとする日本政府や一部識者、反韓国勢力の主張に対し、「いま戦後補償の問題は日韓条約におけるのとは違った次元において問われ」、かつては「政治・経済の問題であり、政府間の問題」であったが、いまは「国民的和解と交流と協力のための問題」であり、「日韓両国民が手を携えて東アジアの協力と繁栄を追及するための問題」である、と喝破しています。

「過去の間違った時代の重荷を肩からおろし、その傷を癒そうとすることは成熟した国家の行為であり、品位ある国民の行動であるといえるのではなかろうか」と。

日本国憲法と平和的生存権

こうした、歴史観、世界的観点は、まさに、日本国憲法に通じるものです。憲法前文は、「われらは政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意」することから出発し、「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚」し、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意し」、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利」すなわち平和的生存権を有することを確認しているのですから。

さらに、「われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない・・・・・この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務である」と言っています。

未来への歴史と東アジア共同体構想

二〇〇一年、私は金沢大学の院生とともに韓国ソウルでKBS（韓国放送公社）理事長であった池さんの講義を受けました。

院生だった現愛媛大学の鈴木静さんは、「歴史とは将来の平和の視点から考えるべきで、おおよそのことは些末なことに過ぎない。しかし、些末なことを手のひらから振り落としても残る事柄がある。この残る事柄こそ、真剣に考えることです」という言葉が、ナヌムの家訪問の後でもあり、深く印象に残っているそうです。

私が感銘を受けたのは、「東アジア共同体構想」です。現在、イギリスの脱退問題等EUが揺らぎ、そして中国の海洋進出、一帯一路構想等不安が増大していますが、アジアの進むべき道は、少なくとも日本、韓国、中国が仲良くし、共同体を形成する以外にないというものです。過去の歴史を踏まえ、現在を考え、そして未来へとつなぐ、未来志向の姿勢を学びました。

あらためて池さんは、本当に偉い人だったと思います。偉ぶらず、謙虚で、いつも笑顔を絶やさない。学生たちにも優しく接してくれました。

韓国に行くと、私たちは留学生、韓国の人々と一緒にカラオケで「演歌」をうたいます。日本文化開放という池さんの偉大な業績の一つを大いに謳歌させてもらっているわけです。

改めてご冥福をお祈りします。

【年頭所感】

「理解不能なことばかり」

代表世話人　五十嵐正博

明けましておめでとうございます。

コロナ禍の下、沈鬱な空気が世界を覆っているようです。コロナ禍は、私たちに「人知の及ばぬ世界」があることを改めて気付かせました。人間の「おごり」を戒めるかのようです。世界の各地で深刻な人権侵害が、そして植民地支配も続いています。核兵器が瞬時にして人類を絶滅させ、温暖化が、地球環境、生態系をじわじわと蝕んでいく、「わかっちゃいるけど止められない」サガを人間は捨て去ることができないままです。そうした事態を止めようと、世界中で、日々抗議し、抵抗する多くの人々の姿もあります。

核兵器の廃絶を願い、あるいは、地球危機を防ごうという若者たちの「抵抗の輪」が希望の光です。

今年は、「沖縄返還」、「日中国交正常化」から五〇周年、政府は、沖縄の民意を一顧だにせず、日中関係は融和と緊張を繰り返しています。「画期」にどれだけの意味があるか、少なくとも来し方を振り返り、未来への展望を考える契機にしなければなりません。

私の日常も様変わりし、一昨年一月から昨年一一月までただの一度も県外にでたことはありません。その間にも、格差社会は急速に進み、意図的に「脅威・対立」をあおりつつ、改憲の策動が加速されつつあります。「もりかけさくら」など「臭いものにはフタ」をされたまま。

本稿では私がずっと、あるいは最近、不思議に思っていること、しかし、なぜか世の中の関心を呼ばないいくつかを「新年雑感」として記すことにします。

池明観さん・戦後補償・拉致問題

池さんについては、井上さんが「所感」で述べられていますので、私が付け加えることはありません。池さんは、二〇年前、戦後補償問題が顕在化した理由を、日韓における「成熟した市民社会」「確かな歴史認識」の出現にあると指摘されました。

それらは、今、どこにいってしまったのでしょうか。とりわけ、安倍政権以降、加害者（日本）が被害者（韓国）に高圧的な態度をとり続ける傲慢さ・理不尽さは、池さんの期待を砕くものです。また、歴代内閣が、「北朝鮮を激しくののしってきた」少なくとも五名（特に第二次安倍内閣の二名）の日本会議国会議員懇談会所属の重鎮を、拉致問題担当相に任命してきたことは、到底理解に苦しみます。北朝鮮に「もっと圧力を」と主張する安倍さんたちは、北朝鮮に「ケンカを売る」ことが拉致問題の解決になると思っているのでしょうか。

日米同盟・コロナ禍・米軍「即応態勢」

日米間で「同盟」の用語が最初に現れたのは、一九八一年、レーガン・鈴木「日米共同声明」でした。それまで「同盟」は「軍事同盟」を意味し、憲法9条に反するがゆえに、自民党でさえその使用を避けてきたのです。以来四〇年、今では、見るだけ、聞くだけで身震いする「軍事造語」（「敵基地攻撃能力」「遠征前方基地作戦」「水陸機動団」など）が飛び交っています。

日米首脳会談が行われるたびに同盟が「強化」「深化」され、「思いやり予算」は「同盟強靭化予算」と名を変え、対米従属が「強化・深化」されます。毎日のように聞かされる「自由で開かれたインド太平洋」という常套句は、「アメリカがインド太平洋の覇権

を維持し続けたい」という意味です。もっとも、中国にも「尊敬される国」になってほしいと願います（もちろん日本もアメリカもすべての国が）。

さて、「米軍由来のコロナ蔓延」、当該自治体もマスコミもそう言います。日米地位協定の改定が必要、日本はアメリカの属国かといった議論がなされています。

米軍のいい加減なコロナ対策は、実は、米軍は「台湾のため、尖閣のために中国と一戦を交えるつもりはない」ことの証です。軍隊に求められるのは「即応態勢」、「求めがあれば今夜にも戦える」態勢。そのためには「隊員の健康状態が良好に保たれている必要がある」（米軍関係者の言葉）。

コロナ禍で明らかになったのは、米軍は「即応態勢」をとっていない、とるつもりもないことでした。「だから、地位協定を改定し、米軍にコロナ対策をしっかりさせよう」ではなく、「そもそも軍事基地はあってはならない、むしろ有害そのもの」なのです。

ＭＤＧｓ・ＳＤＧｓと軍縮・核兵器廃絶

ＳＤＧｓをめぐる話題で持ち切りです。しかし、ＳＤＧｓの前身ＭＤＧｓ（ミレニアム開発目標）の話はほとんど聞いたことがありません。これも不思議なことです。二〇〇〇年九月、国連総会が「新たな千年期（ミレニアム）の黎明に際して」採択したのがＭＤＧｓ。最初に掲げられた目標は「平和・安全・軍縮」であり、その中で、「大量破壊兵器とりわけ核兵器の廃絶に向けて努力」することも決意しました。

ところがどうでしょう。ＳＤＧｓは、「貧困の撲滅が地球の最大規模の課題」と位置付けます。そして、「ＭＤＧｓで残された課題への対応」をうたい、「平和なくしては持続可能な開発はあり得ず、持続可能な開発なくして平和もあり得ない」としながら、核兵器、軍縮の用語を消し去ってしまいました。重大な後退と言わなければなりません。

国連がＳＤＧｓを採択したのは二〇一五年九月、核兵器禁止条約が採択される約二年前でした。

核兵器を保有する五つの安保理常任理事国は、核禁条約の批准を頑なに拒み続けています。本年一月三日、それら五カ国は、突如、「核戦争に勝者なし」声明を発しました。国連事務総長が述べたように、「核リスクを排除する唯一の方法は、すべての核兵器を廃絶すること」です。

最後に、「武力による威嚇、武力の行使は禁止される」、これが国際法の大原則であることを決して忘れてはいけません。改憲を阻止し、核兵器の廃絶を目指して、みなさんと共に微力を尽くしたいと思います。

今年もよろしくお願いします。

核禁条約　トピックス

核兵器禁止条約批准国が五九か国に

核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）のウェブサイトによると、新たに一二月一五日、西アフリカのギニアビサウ共和国が、同二三日、南米のペルーが核兵器禁止条約の批准書を国連事務総長に寄託しました。これにより批准国数は五九か国になりました。

日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める意見書決議は六二六自治体議会に

日本政府に核兵器禁止条約への参加・署名・批准を求める自治体意見書を提出したのは一二月二九日現在、六二六議会（全自治体の三五％）です。石川県では白山市、内灘町の二自治体にとどまっています。当会では野々市市議会一二月定例会に向けて陳情書を提出し、議長・副議長と懇談しましたが、意見書提出に至りませんでした。当会では県内自治体議会への働きかけを継続していきます。

核兵器禁止条約を批准した国（2021年12月27日現在、59カ国）

アジア（9か国）	タイ、ベトナム、ラオス、モルディブ、バングラデシュ、マレーシア、カンボジア、フィリピン、モンゴル
大洋州（10か国）	パラオ、ニュージーランド、クック諸島、サモア、バヌアツ、キリバス、フィジー、ニウエ、ツバル、ナウル
中東・北アフリカ（1か国）	パレスチナ
アフリカ（10か国）	ガンビア、南アフリカ、ナミビア、レソト、ボツワナ、ナイジェリア、ベナン、コモロ、セーシェル、ギニアビサウ
中南米・カリブ海（23か国）	ガイアナ、メキシコ、キューバ、ベネズエラ、コスタリカ、ニカラグア、ウルグアイ、セントルシア、エルサルバドル、パナマ、セントビンセント・グレナディーン諸島、ボリビア、エクアドル、トリニダード・トバゴ、ドミニカ、アンティグア・バーブーダ、パラグアイ、ベリーズ、セントクリストファー・ネイビス、ジャマイカ、ホンジュラス、チリ、ペルー
欧州（5か国）	バチカン市国、オーストリア、サンマリノ、アイルランド、マルタ
中央アジア（1か国）	カザフスタン

核兵器禁止条約締結国会議にオブザーバー参加を表明した国（5か国）

NATO加盟国	ノルウェー、ドイツ
NATO非加盟国	スイス、スウェーデン、フィンランド

【講演要旨】

宣戦布告八〇周年の今、何を学ぶか

アジア太平洋戦争と植民地支配

日本中国友好協会 会長　井上久士

オンラインで講演された井上久士さん

中国近現代の歩みを見る時はまず、主権を何度も喪失してきた中国のトラウマを想起せざるを得ない。一九世紀の対外戦争の連敗と領土の喪失・不平等条約・賠償金などによる中国国民の被害者意識は民族的感情である。「立ち後れれば人に食い物にされ、人に踏みつけにされる」という中国の国民感情を先ず理解すべきであろう。

中華人民共和国の建国（四九年）により、大陸「持久戦」的発想から解放され、臨戦態勢が維持される七〇年代末までが新中国建設の時期にあたる。さらに七〇年代末からの改革開放期には経済特区が設けられ、沿海部開発・平和的発展が進んだ。外国資本を導入して優遇税制を敷き、輸出を振興した。これは〝戦争はしばらく起きない〟という戦時体制からの離脱判断のもと、対外開放、市場経済、国防戦略の転換へと舵を切り、中国は言わば〝離陸〟した。七八～一一年の平均経済成長率は実に九．七％となり、平和的国際環境の下、経済大国となった。

中国は尖閣諸島に攻めてくるのか

七八年の日中国交正常化の際、尖閣諸島については鄧小平の提起により日中双方はこれに触れないことで合意している。その後一四年の日中関係の改善に向けた話合いで、以下の意見の一致をみている。①日中間の四つの基本文書（七二年の日中共同声明、七八年の日中平和友好条約、九八年の日中共同宣言、〇八年の「戦略的互恵関係」の包括的推進に関する日中共同声明）の諸原則と精神を遵守し発展させる、②両国関係に影響する政治的困難を克服することでの若干の認識の一致がある、③尖閣諸島等東シナ海の海域において異なる見解を有するものの、危機管理メカニズムを構築し、不測の事態の発生を回避する、④双方の様々な外交ルートを活用し、政治・外交・安保対話を徐々に再開し、政治的相互信頼関係の構築に努める。

この下では、中国が尖閣諸島に上陸して、五星紅旗をたてる可能性は非常に低い。

人民解放軍は台湾を攻撃するのか

先の一二月冒頭の中国政府高官の見解は「台湾地区は中国の一部。一つの中国原則、中日間の四つの基本文書と日本政府の中国側に対する厳粛な約束は、遵守しなければならない。我々は日本側の一部の者に対して、歴史を深く反省し、直ちに過ちを正し、台湾地区問題において誤った行動をさらに取ることを止め、〝台湾独立〟勢力に誤ったシグナルを送ることを止めるよう促す」である。一二月の安倍氏の「台湾有事は日本有事」の発言は非常に危険。集団的自衛権の行使を容認した安保法制によって自衛隊を台湾海峡紛争に送り込む事態になれば、日本は再び中国と戦うことになりかねない。

中国の本音は、台湾といつか必ず統一したいが、台湾との戦争はやりたくない（台湾は同胞だ）のである。

ではなぜ武力統一の可能性を否定しないのか。それは台湾独立が一番困るからである。

日本は、「一つの中国」という中国の立場を「十分理解し尊重する」という立場でやってきた。これは国連の中国代表権問題でも、アメリカと中国の間でも同様の、国際的大原則である。

台湾の民意は独立ではない。台湾民衆の八割以上は基本的に現状維持である。中国は、民進党の蔡英文政権と米日のやり方に反発して軍事的プレッシャーをかけている。日本メディアが今にも人民解放軍が台湾に攻めてくるように言うのは、全くのミスリードである。日本のタカ派政治家がそれを利用して、防衛費拡大の口実に使っている。「台湾独立」と台湾政府が言わない限り、人民解放軍が台湾に攻めてくることはない。賢明な台湾人は、「台湾独立」とは言わないだろう。

世界の覇権を維持したい米国はＡＩなど最先端技術、経済、軍事などあらゆる分野で中国と激しい覇権争いをしている。しかし五〇年後の中国は、米国のはるか前にいることだろう。その時「我々は中国になる必要はない」という教訓を得ることになろう。

当面は米中間の戦略的安定を図らねばならない。なんとしても武力衝突だけは、絶対に避けねばならない。

（まとめ　中村昭一）

◎一二月八日「平和を守るつどい」におけるオンライン講演の要旨です。

石川県保険医協会／原発・いのち・みらい講演会

東電福島原発事故　作業員の10年間を知る

東京新聞福島特別支局長　片山夏子

原発作業員の労働実態を報告する片山夏子さん

かん口令下の労働実態

十二月五日（日）午前十時にホテル金沢において、東京新聞福島特別支局長の片山夏子さんを講師に招き、「東電福島原発事故　作業員の十年間～一人ひとりの声を記録して」と題し、講演会を開催した。Ｗｅｂ参加者も含め約百人が聴講した。

いわゆる「3・11」から十年以上が経過し、東京電力福島第一原子力発電所事故の報道が激減、国民の多くは国や東京電力からの廃炉に向けたわずかな情報にしか接することができない。政府は原発事故の影響はさほどもなかったかのように、今も原発を稼働させている。

今回片山さんをお招きしたのは、記者として丹念に取材し、片山さんがいなければ決して知ることができなかった原発作業員が語る事実をまとめた著書『ふくしま原発作業員日誌』が二〇二〇年二月に上梓されたからだ。

片山さんは原発事故発生直後から事故の取材に入る。作業員の給料が何重もの下請け構造となってピンはねされ、命がけで働いても一日六千円程にしかならない話、被ばく線量を少なく見せるために鉛板で線量計を遮蔽した話、ずさんな作業現場で作業員が生き埋めになり死亡した話も含め、かん口令下で隠蔽されてきた作業員の労働実態等を今回の講演でお話しいただいた。その中で一つだけ詳しく紹介したい。

「線量計を取り替えてこい」

二〇一三年九月、安倍首相（当時）が「（汚染水の状況は）アンダーコントロール」と言って東京五輪招致が決まった直後に福島第一原発を視察。ようやく運転を開始したＡＬＰＳ処理装置がうまく稼働していないことに対して「しっかり期限を決めて汚染水を浄化すること」と東電に要請し、これを受けて廣瀬直己社長が二〇一四年度中に全ての汚染水を浄化すると発表した。

当時、片山さんの元には作業員から「現場に『国の命令だからとにかく急げ』という指示が飛んでいる」、「毎日、長時間労働で疲労がピーク」との声とともに、「朝礼で主任監督が『（作業時間が）十時間を超えそうになったら、線量計を取り替えてこい』と言っていた」との情報が入る。被ばくの危険のある現場では、法律上は一日の労働時間は十時間以内と決められており、作業員らが持つ線量計は被ばく線量を測るほか作業時間も管理していたからだ。

片山さんがそうした調査報道を東京新聞一面で報じたのち、作業員を派遣している元請けの東芝や下請けの東芝プラントシステムは十時間越えの作業を否定していたが、労働基準監督署が入り法律違反での是正勧告が出されたことで否定ができなくなった。

森友・加計学園問題などでもそうだが、「公正さ」が蔑ろにされている。私たちは事実を知らねばならない、改めてそう思わされた講演会であった。

（まとめ　齊藤典才・石川県保険医協会理事）

詩人会議かなざわ「独標」より

夏の憂え

若松きぬえ

アルファからデルタまで来た
変幻自在に飛びまわる
君は何物だ
人間社会のほころびを
目ざとく見つけて潜り込み
かき乱す
一人一人の身体を蝕み
心の不安をかきたてる
右往左往する人間をもてあそび
かく乱する
その時
人類は何をしたか
助け合い一丸となれたか
誰かが記録をしている

無情に進む時計の針
マスク生活は早一年半
日々の仕事は食事と洗濯
週に一度スーパーへ買い出しに
青い空に湧く
真っ白な雲は
重なり重なり厚く
表情を変えながら
何をか語る

非核石川の会リレーエッセー

二〇二一年　十二月

横山葉月

明るいみとおしが見えず、信じがたいニュースがおし寄せる中やってきた苦手な北陸の冬。そんななかで聴いた三つの歌が、心に残っている。

一つは『鳥のうた』。これは、スペインの紛争地域の民謡で、キリストの生誕を祝い、平和を願って、小鳥がさえずるというもの。この歌を、人間の声に近いチェロに編曲した人もすごいと思うし、何よりカンタ氏の演奏がよかった。ひびきわたる小鳥の声と、祈りをこめた深い音色の美しい歌だった。

二つめは、ショパンなどを中心にしたピアノコンサートの中で奏でられたシューベルトの『菩提樹』。この曲は、失恋の痛手を負った若者が、冬の旅の途中に、菩提樹にであい自分の気持ちをこれに重ねるといった歌で、とくに平和へのメッセージというものはない。歌曲として人気のある曲だが、ピアノという可能性のとても大きい楽器によって、こんなにも、人間の悲しみや、なぐさめを美しく歌えることができるのかと、心うたれた。

三つめは、ベートーベンの第九交響曲の第四楽章『歓喜のうた』。終わりにむかって、「全ての人々は兄弟となる」というフレーズが何度も何度も、ドラマチックに、オーケストラで、合唱で、ソロで、激しく、美しく、くり返される。この曲を作曲した時のベートーベンは、ほぼ全聾で、初演で自らが指揮した時は、オーケストラの大音響が聴こえず、曲が終わっても振り続けたという。

圧倒的な、強い意志の曲だと思ってきたが、こんなにも美しく、こんなにもいい曲だとは思ってこなかった。いい曲にめぐりあえた十二月だった。

あい変らず信じがたく、信じたくないニュースが続いている。けれども、美しいものにであい、心が動いた時、人は前むきになれるような気がして、私は二〇二一年の十二月をのり切った。

編集室より

◎例年同様、一月号の冒頭はお二人の当会代表世話人による『年頭所感』。

井上英夫さんが追悼されている「T・K生」こと池明観さん。私は雑誌『世界』を七〇年代末から一五年まで三五年以上読んでいたので、ことさら親近感のあるお話でした。また金大中氏拉致事件も七三年当時、浪人生だった私にとって強烈な印象が残っています。「歴史とは将来の平和の視点から考えるべき」、すすむべき道は「東アジア共同体構想」しかない、など示唆に富む内容です。

五十嵐正博さんは〝理解に苦しむ現状〟をユニークに披露していて楽しい。北朝鮮に「もっと圧力を」、常套句「自由で開かれたインド太平洋」、「米軍のいい加減なコロナ対策」などの真意を暴いている。SDGsですら「平和なくしては持続可能な開発はあり得ず、持続可能な開発なくして平和もあり得ない」としながら、核兵器、軍縮の用語を消し去っている、と指摘。最後に、国際法の大原則「武力による威嚇、武力の行使は禁止される」を忘れるな、とまとめるのは流石。

私にとって昨年、特に印象深かったのは、伊藤千代子の生涯を映画化するにあたっての前進座の嵐圭史さんの夏の講演だった。嵐さんは講演中は普通にお話するのですが、劇中の人物の台詞を語るときは一気に豹変し、役者としての姿を現し、劇『赤ひげ』主役として以下の〝徒労に賭ける〟の真髄を語りました。これは素晴らしい時間でした。

「人間の本当の価値というものは何をしたかということではない。何をしようとしているかだ。成功、失敗、そんなことは結果にすぎない。俺達の努力は徒労に終わるかも知れないが、俺は自分の一生を、徒労に賭けても良いと信じている」

嵐さんは「演劇というものは、観る側の感性や経験なども動員して創り上げていくもの。いわば〝人が人を描く芸術〟という特性を持っています。それ故に、他の分野では味わえない感動がある」と語ります。図星。

今では新聞も本も読まない、演劇や映画など全然観ないという人も多く、ある意味では文明の危機。拝金主義がはびこり、他者配慮や未来展望を見失いがちな現代。しかしこれで良い筈がない。いかに徒労が予想されても、私たちは諦めてはいけない。（中）

石川の山めぐり ⑬

揚原山 487m
高野山 373m

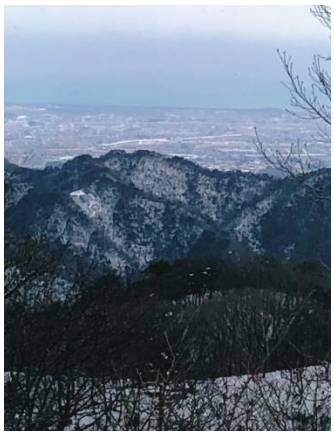
能美市
吉沢京子

この山々は近年、林道鍋谷、和佐谷線から北電・加賀東金津線の巡視路を登り高野山から揚原山へ四時間くらいで縦走できるようになりました。

高野山（たかのやま）には三等三角点・高野があり、揚原山（あげはらやま）に向かう途中のあずま屋から海岸線、辰口、金沢方面が見えます。揚原山には二等三角点揚原山があります。

あずま屋から揚原山に向かって鶴来方面に行くと白山が眺望できます。

雑木の中の高野山頂上



揚原山より辰口方面を望む

揚原山からの下りに、蟹淵（がんぶち）という淵があります。

この淵は能美市の天然記念物に指定されており、青緑色のとても美しい色をしています。標高268mのところですが、通常1000m以上のところでないと見られないルリイトトンボやモリアオガエルなどが生息しています。ヒツジグサ、カンガレイなど希少植物もあります。

まんが日本昔ばなしで『蟹淵の化け蟹＝がんぶちのばけがに』という雨乞伝説の民話が放送されました。

お花は、春から　チャルメルソウ、エンゴサク、カタバミ、ユキツバキ、キクザキイチゲ、ダンコウバイ、イワウチワ、カタクリ、ショウジョウバカマ、イカリソウ、エンレイソウ等々多く咲きます。運が良ければカモシカにも出会えます。

化け蟹伝説の残る蟹淵（がんぶち）

【参考】三角点とは

三角点は国が地形図を作成する際、経度や緯度、標高の基準になる点のことです。

一等三角点は45km間隔。二等は8～10km間隔。三等は3～4km間隔。四等は1・5km～2km間隔となっています。三角点には点名があり、山名と一致するとは限りません。

標石は、一等・18cm角。二等と三等・15cm角。四等・12cm角の大きさです。標石の側面に等級と点名が刻まれています。

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班
近松美喜子

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
1	22	土	11:00	核兵器禁止条約発効1周年記念 街頭キャンペーン	金沢市武蔵町・金沢エムザ前
	22	土	14:00	2022年 北陸原水協学校inいしかわ（講師　土田弥生さん）	オンライン開催
	27	木	14:00	2022年 平和と民主主義を求める新春のつどい	金沢市昭和町・平和と労働会館3階ホール
	29	土	14:00	石川県平和委員会／新春オンライン学習講演会（布施祐仁さん）	金沢市鞍月・石川県地場産業振興センター／オンライン併催
2	2	水	12:50	「怒りの昼デモ」	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園横入口
	5	土	13:30	石川県社会保障推進協議会／2022年新春社会保障講演会（横山壽一さん）	金沢市鞍月・石川県地場産業振興センター／オンライン併催
	11	金・休日	10:00	「建国記念の日」反対　平和と民主主義を考える集い（飯森和彦さん）	金沢市青草町・近江町いちば館4階集会室
	11	金・休日	14:00	原発問題住民運動石川県連絡センター／活断層問題学習会（児玉一八さん）	志賀町高浜町・志賀町文化ホール
	16	水	12:50	「怒りの昼デモ」	金沢市香林坊・いしかわ四高記念公園横入口
	28	月	13:00	3・1ビキニデー全国集会（～3月1日）	静岡県静岡市及び焼津市内／オンライン併催

*会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中　　年会費 2,000円